『金融経済研究』第39号，2017年3月

マイナス金利政策の法的規制理論

竹田陽介

〈要旨〉

本研究は，貸出・預金金利に下限制約が残る現状に着目し，Bryant and Wallace (1984) らの法的規制理論に基づき，短期金利のマイナスの深堀りと国債買入れ額の増額という2つの操作手段を持つマイナス金利政策の効果について，比較静学分析を施す．前者の手段は，国債金利を低下させる一方，社会的厚生水準を低下させてしまう．後者は，社会厚生水準を変えないが，金融政策が国債需要を決めるため，国債金利の上昇を伴う．

©Japan Society of Monetary Economics 2017